

ひらほく新聞



「ひらほく新聞」で検索！
 ★ホームページ・ひらほくランド★
<http://www.hirahoku.com/>
 ☆バックナンバー含め「ひらほく新聞」を
 閲覧・ダウンロード可能です！

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

あらためて 伝えたおぼえ やまとの ひらほく



◎2018年1月14日の講演録
 2000円十税、お取り寄せ可。
 超お買い得、お勧め作品です！

本紙で何度かご紹介しました日本屈指の講演家、中村文昭さんに「どうしても聴いてほしい話！」と言わしめた、赤塚高仁さんの超感動講演。心友のご縁クリエイター・あいさんに「このDVDは永久保存版！」とご紹介いただき購入、有難く拝聴しました。まさにその通り、笑いあり、涙あり、感動溢れる深い語り。今こそ学ぶべき「やまとのひらほく」、ここに恩送りいたします。

あなたは、日本の 始まりを語ること ができますか？

1959年三重県津市生まれの赤塚建設(株) 代表取締役・赤塚高仁さんは、有難く出会った日本の宇宙開発の父、ロケット博士として世界に名高い故・糸川英夫博士の一番の思想継承家。足で学ぶということを信条に日本はもちろん世界各国をところ狭しと飛び回る。

お堅い話？ いいえ、親父ギャグを交えながら誰でもスッと心に入る講演です。

中学生や高校生、大学生とこれからを担う若い子達にぜひ聴いてほしい、そして経営者の方、上司、先生、親御さん、人を育てる立場の方にぜひ知ってほしい内容です。

以下、講演内容より

今から16年前、海外へもよく連れて行っていた娘が、15歳でアメリカに一年間留学に行ったときのこと。帰ってきて「どうやった？」って聞いた質問から私の人生を変えようとした展開が始まった。

「お父さん、私はホント恥ずかしかった。辛かった。みんな、日本のことを聞いてくる。日本の国っていつ、誰がつくったの？って聞かれて、分からないって答えたらみんなビツクリして…。自国の成り立ちのことを全員が知っていたのに、私は分からなかった。そして、言われた。あなた、何しにアメリカに来たの？あなたが知るべきはまず自分の国でしょ。自分の国を知らない人がなぜよその国を愛せるの？自分の国を愛せない人は、世界ではバカにされるのよ！」

そして、娘に日本の始まりを質問されて答えられなかった…。

いま、これをしっかりと答えられる人は日本で3%しかいないという。世界193カ国の国連加盟国の中で自分の国の成り立ちを教えていない国が一国しかなかったと知り衝撃でした。

そこで振り返り分かった。糸川先生のおかげで知った、イスラエルの国の人たちの共有する思い。民族の定義というのは、『同じ歴史を共有する仲間のこと』だと初めて理解した。

自分はパスポートを持っていて住民票があり、日本語をしゃべっていても日本人じゃなかった！と、42歳にしてかなり衝撃的なことが分かった。

もしできることならもう一度学び直して、日本人として死にたい！と強く思い、本気で学ぼうと思った。

アメリカの中学校の歴史教科書には日本の建国が詳しく載っている

いろいろ調べると、アメリカの中学校の歴史教科書には以下のように詳しく載っていた。

「イザナギという権威ある神がその妻イザナミとともに天浮橋に立った…。

（中略）
 鎗の先から潮のしずくが落

ちた。しずくが次々と固まり島となった。このようにして日本誕生の伝説が生まれた。（中略）

太陽の女神は孫のニギハヨミトを地上に降り立たせ新しい国土を統治するよう命じた。

ニギハヨミトは三種の神器（鏡・剣・勾玉）も日もなお、天皇の地位の象徴となつている。を祖母から持たされ九州にきた。ニギハヨミトには神武という曾孫があつて、この曾孫が日本の初代統治者となった。それはキリスト紀元前660年の2月11日のことであつた（何と2678年前のこと！これが日本の建国だとアメリカの教科書には書いてある）。

何百年もの間、日本はこの神話を語り継いできた。この神話は、日本人もその統治者も国土も神々の御心によって創られたということの証明に使われた。

かくして日本の王朝は世界で最も古い王朝ということになる。

このようにほぼ完璧に日本の建国についてアメリカの教科書に書かれているが、日本のどの教科書にも載っていない。調べてみると、我々の先祖は「マンモスの狩人である」と書かれている。これが今も日本の学校で教えていること！

なぜいつなったのか？

言葉を超えたものを伝えるには、言葉では無理。だから日本は神話にして伝えてきた。これが我々の民族の背骨であるはずなのに、我々はその大切なものを戦後奪われた。

我々大和の民を徹底的に恐れて、日本さえ刃向かわなければ、世界は平和になる、そのために日本から抜いてしまわなければならぬいものがある、それが…、『やまとのひらほく』だつた。そう考えた人たちがいる。

193カ国の国連加盟国の中で、自分の国の歴史を教えてられない国が世界で一番歴史が長いなんておかしい。世界で最も歴史が古い国は日本、2番めがデンマークで1100年、3番めが英国で960年。日本はダントツ！もしこの大切な神話がこれ以上抜かれるとしたら、(若者に語り継がれずにいくとしたら)この国は滅びていく！

この国が滅びるかどうかの瀬戸際にあるので、この国を何としても守らなければいけないということ、いま陛下(今上天皇)は「譲位をし、上皇になり、本当にこの国のために、祈りのために命を捧げよう」と、そう私には感じられる。

八紘一宇

これが2678年前の神武天皇の建国、創業の理念。「世界の国々の人々は、ひとつ屋根の下の家族のようなものである」。自分の国を建国するのにそこまで大きな思いを持っている民族はどこにもない。この心持ちで日本という国はこまごまやってきた。天皇陛下は、一人ひとりが宝物だと、国民のことを大御宝といつて祈り、守ってきてくれた。日本は世界の光。この国

が世界で最も続いてきたという事は、世界のお手本。この国がなくなったら、おそらく世界は滅びる。

今この時代に生きている私たちは、この国をもう一回光り輝く美しい瑞穂の国にするための使命を帯びてきた同志なのです。

戦争をなぜやらざるを得なかったかを知ること。そして、命を支えてくれた英霊達に私は感謝したい。「有難う」は絶対に言うべきだと思ふ、人として。過ちを犯したのは日本ではない。僕たちは、こんな美しく素晴らしい国をもう少し大事にしたほうがいい。(終)

※後半は、以前本紙でもご紹介した戦時中のパラオ、ペリリュー島の感動悲話、そして語り継ぐべき昭和天皇感動悲話です。

心温まる書籍紹介ブログ
『人の心に灯をともし』
より今月もご紹介します。

得をさせる人

齋藤一人さんの

心に響く言葉より…

私は、「天職」についてよく質問されます。「自分の天職はなんですか」と。天職なんてないのです。答えが早いでしょう(笑)。天職などありません。目の前のことを一生懸命やっている、それが天職になるのです。

この前は、ある男性からこんな質問を受けました。「私、会社を辞めたいんですよ。で、次に行くところは？」「まだ決まっていますよ」「そう言うので、私はどう答えました。」

「じゃあ、あと3か月だけいなさい。で、あと3か月、そこで一生懸命やんなさい。あなた、その職場をもう嫌いになっているんだろ。うけど、でも、きつと社長もあなたのこと嫌いになっっているから。3ヶ月一生懸命やって、惜しまれて辞めなさい」

人生でいちばんいけないのは、
「あいつを使って損した」
「あいつに会って損した」
「この本読んで損した」と、

相手に損したと思われること。必ず自分を使って得をしたと思わせないといけない。そのためには、「はい」と大きな声で返事をするとか、残業を頼まれたならば頼まれた以上の仕事をするとか、どんな小さなことでもしたほうがいいよ。

会社を辞めるにしても、その会社に得をさせたいと思われない。損をさせたまま逃げないように辞めてはいけませんよ(笑)。

先に私に質問をした男性に3ヶ月後に会いました。この3ヶ月間は一生懸命に仕事をしてみたかったです。すると、「会社が自分をごく大事にしてくれるようになりました。とてもいい職場です」と言うのです(笑)。

世の中とは、そういうふうにできているのです。『普通はつらいよ』 マキノ出版

人間として一番魅力的な人は、「また会いたいなあ」と思わせる人。その反対に、「会って嫌な気分になる」ような人とは、一度と会いたくはない。

また会いたいと思わせる人は、与える人。魅力ある人は、見返りを求めず、惜しみなく与える。与える人は、得をさせる人。二度と会いたくない人は、奪う人。

奪う人は、自分のことばかり考えて、ケチくさい。奪う人は、損をさせる。

この得をさせたり、損をさせたりするのはお金のことだけではない。得をさせる人は、「優しい言葉」や「気遣いある言葉」という「愛語」や、人を和ませる「笑顔」がある。

得をさせる人は相手を喜ばす。損をさせるはけち臭い人は、たとえば、「感謝」もしないし、「ありがとう」も言わず、「挨拶」も出し惜しみをします。損をさせる人は相手をがっかりさせる。会う人会う人に、得をさせる人でありたい。(終)

「我以外皆我師也(われ以外みな我が師なり)」自分以外の人、自然、全てから学ぶ、という意味の吉川英治氏の言葉があります。出会いはからたくさんの学びをいただき、「また会いたい」と思ってもらえる人へ、日々学びは続きます。

いま、私にできること

4月22日のひらほく塾は第2回筆文字教室でした。

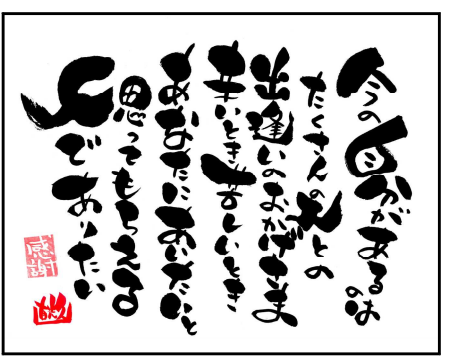
一気に気温が上がった日曜日、筆の先生(笑)としてどんな格好をしようかと夏物を物色、黒字にハチドリがプリントされたTシャツを選びました。以前、登山家の栗城史多さんの応援仲間を知り合った、宮手恵さん主催の講演会にスタッフ参加した際のものでした。

北海道・室蘭出身の恵さんは、栗城さんに出会って人生が大きく変わった一人。NPO法人はちどりプロジェクトを立ち上げ、カンボジアのプレイキションという小さな村に、小学校を作りました。そして、譲渡した学校が維持していけるよう、またカンボジアの子どもたちや保護者の方が安心して健康で過ごせるように、「はちどり」の仲間として継続して支援活動を行っています。

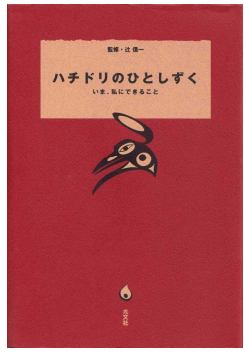
知り合った当初から彼女がずっと大切に発信してきたメッセージがあります。

「微力だけど、無力じゃない」

よろしければ、支援のご協力をよろしく願っています。※「はちどりプロジェクト」で検索。



さて、ちいさな力の大切さを教えてくれる、南米アランダス地方に住む先住民族に伝わる『ハチドリのお話』(監修・辻信一)のお話は、ご存じの方も多いいと思います。ここにあらためてご紹介します。



森が燃えていました。森の生き物たちはわれさきにと逃げていきました。でもクリキンディという名のハチドリだけはいつたりきたりくちばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落とすしていきます。動物たちはそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ」と笑います。クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

この短い物語には、大きなメッセージが込められています。

笑った動物たちは悪人で

しようか。みんな力で合わせたら多くの水を運べるということを知らなかっただけかもしれない。

この山火事は現在の地球やまた、日本の状況に例えられます。地球温暖化、戦争、飢餓・・・日本では、少子高齢化、貧困格差、教育、介護・・・挙げれば切りがありません。

このままでいいはずはありません。あらためて山火事として捉えてみたとき、どんなことでもいいので、何かを始めなければと警笛を鳴らしてくれているのがこのハチドリからのメッセージです。目の前で燃えてしまいかもしれない地球、日本・・・。あなたはハチドリになれるか。

一人でできることは本当に限られています。でも、こうしたお話に触れて、「いま、私にできることをする」という思いの輪が広がれば、つながったハチドリで力を少しづつでもその火の勢いを抑えていけるのではないのでしょうか。

一人ひとりの力は微力でも、決して無力ではない。ほんの少しの勇気を出して一歩踏み出す。できることとして「ハチドリのお話」を「はちどりプロジェクト」の思いを伝える、まずは身近な人たちへ自分の言葉で届けましょう。さらに、あなたにできることは何でしょうか。(終わり)

編集後記

先月、4月号でご紹介「お金道」の北岡恵子さんとは

後に分かったのですが、既にフェイスブックで繋がっている方でした。掲載のご挨拶の連絡をしてミニコミをお送りすると、有難く地元三重・伊勢神宮の勾玉のアクセサリー等を送ってくださいました。お目にかかる機会が楽しみです。

今月号の赤塚さんのお話は、発売されたばかりのDVDの情報を購入、まだ観ぬうちから、表面は「レ！」と決めていました。「魚に水が見えないように、鳥に空が見えないように、日本人には日本が見えない。大切なことほど、見えない世界」というメッセージ。普段から「思いは届く」など、「見えない力」を信じる自分、実は2月11日、建国記念の日生まれました。大げさになりますが、有難く『やまとのころ』を伝える使命を感じております。「自分にできること」として、今後も活動を続けてまいりますのでどうぞよろしく願っています。

過去に掲載しました、白駒妃登美さん、寺岡賢さんの記事分の新聞を、『やまとのころ』としてご希望の方にお届けいたします。お気軽にお申し込みください。

過去に掲載しました、白駒妃登美さん、寺岡賢さんの記事分の新聞を、『やまとのころ』としてご希望の方にお届けいたします。お気軽にお申し込みください。